

# 桐生倶楽部・H21年9月例会「香取神宮・銚子犬吠埼探訪」(歩く会担当)

担当 松島・押見・江原・岸田

《スケジュール》平成21年9月13日(日) 5:15 桐生倶楽部集合出発

- 8:40 香取神宮(香取市) → 10:20 銚子駅 銚子電鉄 10:29 → 10:46 犬吠駅  
～ 満願寺 ～ 地球の丸く見える丘展望台
- 12:10 犬吠埼灯台前「みさき亭」にて昼食会 → 12:55～13:30 犬吠埼灯台・資料館
- 13:40～14:30 ウオッセ21・水産物卸売りセンターにてフリータイム・お買い物
- 14:45～15:20 飯沼観音円福寺(坂東二十七番)
- 16:00 銚子発 → 19:30 桐生倶楽部・帰着予定

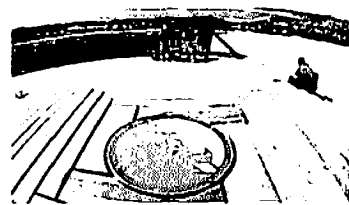
## 《見処案内》



【香取神宮】日本書紀に依れば創建は神武天皇18年(紀元前643?)、大和朝廷所縁の神社。日本全国に約400社ある香取神社の総本社。式内社、下総国一宮、旧社格は官幣大社。祭神は経津主大神(ふつぬしのおほかみ・別名・伊波比主命いはひしのみこと)。現在の本殿は徳川綱吉により元禄13年(1700)の造営、国重文。宝物館には、日本三名鏡のひとつ海獣葡萄鏡(国宝)をはじめ、双竜文鏡(国重文)・古瀬戸黄釉狛犬(国重文

／250円切手の図案)、県指定文化財198点など多数が保存されている。

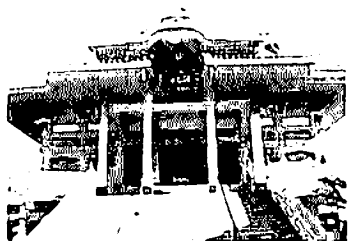
【地球の丸く見える丘】銚子市内の最高峰・愛宕山(標高73米)に建つ、展示館を兼ねた展望施設。屋上展望スペースからの眺めは360度中330度、屏風ヶ浦の断崖も一望できる他、太平洋の水平線が丸く弧を描いて地球の丸さを実感出来る。



【銚子電鉄】大正12年(1923)開業、JR銚子駅～外川間6.4キロ(駅数10駅)を19分で走る。「鯛焼き」や銚子名産の醤油を使った「ぬれ煎餅」の製造販売は有名で、鉄道事業の赤字を補うまでになっている。平成10年、経営悪化で自己破産申請を行い倒産、平成15年社長の横領事件により鉄道経営は危機に瀕した。平成18年には資金不足から鉄道車両法定検査が行えない事態に陥ったが、ネット上で「電車修理代を稼がなくちゃ、いけないんです。」と支援を呼びかけ、テレビ・ラジオ・新聞などの報道も手伝って、支援をしようという人々

から「ぬれ煎餅」の注文が殺到し、当面の資金稼ぎが出来たお陰で車両検査の目途が立ち当面の営業運行を確保した。この年「電車修理代を稼がなくちゃ、いけないんです。」の言葉は『現代用語の基礎知識』に収められた。

【犬吠埼灯台】工部省灯台寮がイギリスから招聘した灯台技師ヘンリー・ブラントンの設計・施工監督のもと明治7年(1874)に完成。工事費用は当時の金額で4万5千円。工事には19万3千枚のレンガが使用された。当時レンガはイギリスから輸入されており非常に高価だった。灯台寮技師・中沢孝政は国産化を主張して、苦心の末香取郡高岡村でレンガ造りに適した良質の土を発見、付近の旧藩土に製造法を教えて製造した。このレンガでできた灯塔は、百年以上もの歳月に耐えて、現在もレンガ造りの構造物としては日本一の高さを誇っている。



【坂東二十七番・飯沼観音】伝説によると、漁夫の清六(観清)と長蔵(音長)が本尊の十一面観音を拾い上げて祭ったのが始まりで、後に(弘仁年間810～824)弘法大師が巡錫した際に開眼し、この地方の豪族・海上氏一族の庇護の下に繁栄した。鎌倉時代、源頼朝が関東各地の有力豪族に命じて坂東三十三観音霊場が成立した際、二十七番に選ばれた。以来銚子の街は飯沼観音の門前町と繁栄した。天保水滸伝に登場する侠客・銚子の五郎蔵の墓もここにあり、本坊には五郎蔵の倅勝五郎と飯岡の助五郎寄進の大きな銅製の壺がある。